

宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に 関する調査研究（2）

林田 勇蔵・濱田 芳子・佐々木昌代

Survey and Research on Miyazaki Women's Junior College Interns in Kindergarten and Nursery Teaching (2)

Yuzo HAYASHIDA, Yoshiko HAMADA and Masayo SASAKI

I. はじめに

本調査研究は、学生が意欲を持って実習を体験し十分な達成感、満足感を得ることができるようにとの願いと、そのためには、どのような実習環境を整えていくことができるかを求めようとしてはじめたものである。

研究(1)では、大学の自己評価の一環として、まず学生に対してアンケート調査を実施し、学生の実習園決定から実習に至るプロセスをあらためて見直すとともに、学生自身の自己評価から実習指導の内容・方法について検討した。そこで得られた結果から、本年は入学時の実習指導課のオリエンテーションに加え、保育科として実習園選択に当たってのより懇切な説明を行うために「実習オリエンテーション」を新たに実施するなど、実習指導に若干の改善を行なうことができた。

さらに、今回の調査では、学生に対するアンケート調査とともに実習園に対しても同様に調査を行ない、依頼に関わる手続き等の実習の現状について検討をすすめることにした。また、実習に対する学生の自己評価と成績評価とは異なる観点からの実習園による評価の双方から、実習指導に関わる一層の改善の視点を明らかにすることを試みた。

II. 目的

- (1) 実習園と学生のアンケート調査を通して、実習依頼の手續等についての実習の現状を見直し、改善点を明らかにする。
- (2) 実習に対する実習園の評価と学生の自己評価を分析・比較し、実習指導の内容・方法について一層の改善をはかる。

Ⅲ. 方 法

質問紙法により，実習園に対しては幼稚園実習，保育実習Ⅱの開始時に調査依頼を行ない実習終了後に郵送により回答を回収し，学生に対しては幼稚園実習，保育実習Ⅱ終了後に調査を実施した。

○調査対象：幼稚園実習

実習受け入れ幼稚園 87園，[回答数 65園〈回収率 74.7%〉]

保育科平成7年度入学生 156名のうち実習終了者 151名，[回答者 151名〈回収率 100%〉]

：保育所実習

実習受け入れ保育所（園）118所（園），[回答数 100所（園）〈回収率 84.7%〉]

保育科平成7年度入学生 156名のうち実習終了者 153名，[回答者 152名〈回収率 99.3%〉]

※実習園回答数は，実習生数でみると幼稚園 116名〈回収率 76.8%〉，保育所 128名〈回収率 84.2%〉であった。

○調査期間：幼稚園実習

実習園については平成8年6月～7月

学生については平成8年6月25日(火)～7月5日(金)

：保育所実習

実習園については平成8年11月～12月

学生については平成8年11月27日(水)，12月4日(水)，12月11日(水)

○調査内容

①実習依頼の手続，実習打ち合わせ，実習園への交通手段並びに実習全般についての現状に対する実習園および学生による評価

②実習の内容に対する実習園による評価および学生による自己評価

※保育所実習に対するアンケートは，幼稚園教育実習アンケートを踏まえ，次の点を修正した。

- 実習の内容に対する評価を問う表現を「充実した実習」から「よい実習」に変更した。これは，前年度の学生による評価に比べてかなりの高率でプラス指向の結果であったため，実習全体の評価というより「一生懸命に」「精一杯に」といった実習過程の努力的な面に偏った評価を「充実した」という表現が導いているのではないかと考え，学生あるいは実習訪問先でもっともよく耳にする「よかった」という表現に置き換えることにした。
- 「充実した実習」から「よい実習」への変更にあわせ，プラスは「十分」，マイナスは「不足」と異なる表現を使っていた回答の選択肢を「十分」に統一した。

Ⅳ. 結 果

「幼稚園教育実習についてのアンケート」集計結果

A1-1. 実習依頼の時期は適当であったと思われますか（実習園）

	回 答 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	57	87.7
イ. 適当でなかった	6	9.2
ウ. どちらともいえない	2	3.1
計	65	100.0

A 2-1(1). 依頼状を持参して、実習園にあいさつに行ったのはいつですか（学生）

	回答数	割合(%)
ア. 平成7年4～6月にあいさつに行った	26	17.2
7月にあいさつに行った	57	37.7
8月にあいさつに行った	25	16.6
9月にあいさつに行った	5	3.3
12月以降にあいさつに行った	3	2.0
イ. あいさつに行ったが、期日を忘れた	35	23.2
ウ. あいさつに行かなかった		
計	151	100.0

A 2-1(2). 実習園にあいさつに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか（学生）

	回答数	割合(%)
ア. 全員そろってあいさつに行った	96	63.5
イ. 実習生は自分一人だけだった	46	30.5
ウ. 別々にあいさつに行った	9	6.0
計	151	100.0

A 1-2. 実習依頼の手続は適当であったと思えますか（実習園）

	回答数	割合(%)
ア. 適当であった	62	95.4
イ. 適当でなかった	3	4.6
ウ. どちらともいえない		
計	65	100.0

A 1-3. 実習前打ち合わせの回数は適当であったと思えますか（実習園）

	回答数	割合(%)
ア. 3回以上必要		
イ. 2回が適当	43	66.2
ウ. 1回でよい	21	32.3
エ. 必要ない		
オ. その他	1	1.5
計	65	100.0

A 2-2(1). 実習園との実習前打ち合わせに行きましたか (学生)

	回 答 数	割 合 (%)
ア. 2 回行った 平成 7 年 7 ～ 9 月と平成 8 年 5 ～ 6 月	18	11.9
〃 平成 8 年 4 月と平成 8 年 5 月	23	15.2
〃 平成 8 年 4 月と平成 8 年 6 月	2	1.3
〃 平成 8 年 5 月と平成 8 年 5 月	9	6.0
〃 平成 8 年 5 月と平成 8 年 6 月	4	2.6
〃 (年月の記述なし)	3	2.0
イ. 実習園より指示され、平成 7 年 8 月に 1 回行った	1	0.7
〃 平成 8 年 4 月に 1 回行った	2	1.3
〃 平成 8 年 5 月に 1 回行った	34	22.5
〃 平成 8 年 6 月に 1 回行った	9	6.0
〃 1 回行った (年月の記述なし)	5	3.3
ウ. 自分の判断で 1 回行った 平成 8 年 4 月	2	1.3
〃 平成 8 年 5 月	30	19.9
〃 平成 8 年 6 月	6	4.0
エ. 実習園より指示され、行かなかった	2	1.3
オ. 自分の判断で行かなかった	1	0.7
カ. その他		
計	151	100.0

A 2-2(2). 実習園との実習前打ち合わせに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか (学生)

	回 答 数	割 合 (%)
ア. すべて全員そろって打ち合わせに行った	99	65.6
イ. 実習生は自分一人だけだった	49	32.4
ウ. そろって行ったときと別々に行ったときがあった	3	2.0
計	151	100.0

A 1-4. 実習の通勤手段は適当であったと思われますか (実習園)

	回 答 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	57	87.7
イ. 適当でなかった	5	7.7
ウ. どちらともいえない	3	4.6
計	65	100.0

A 2-3. 実習園への通勤手段は何でしたか (学生)

	回答数	割合 (%)
ア. 徒歩	29	19.2
イ. 自転車	60	39.7
ウ. バイク	2	1.3
エ. 自動車	25	16.6
オ. バス	6	4.0
カ. 父母の送迎	13	8.6
キ. その他	16	10.6
計	151	100.0

A 1-6(1). 学生の実習の様子をご覧いただき、充実した実習であったと思われませんか (実習園)

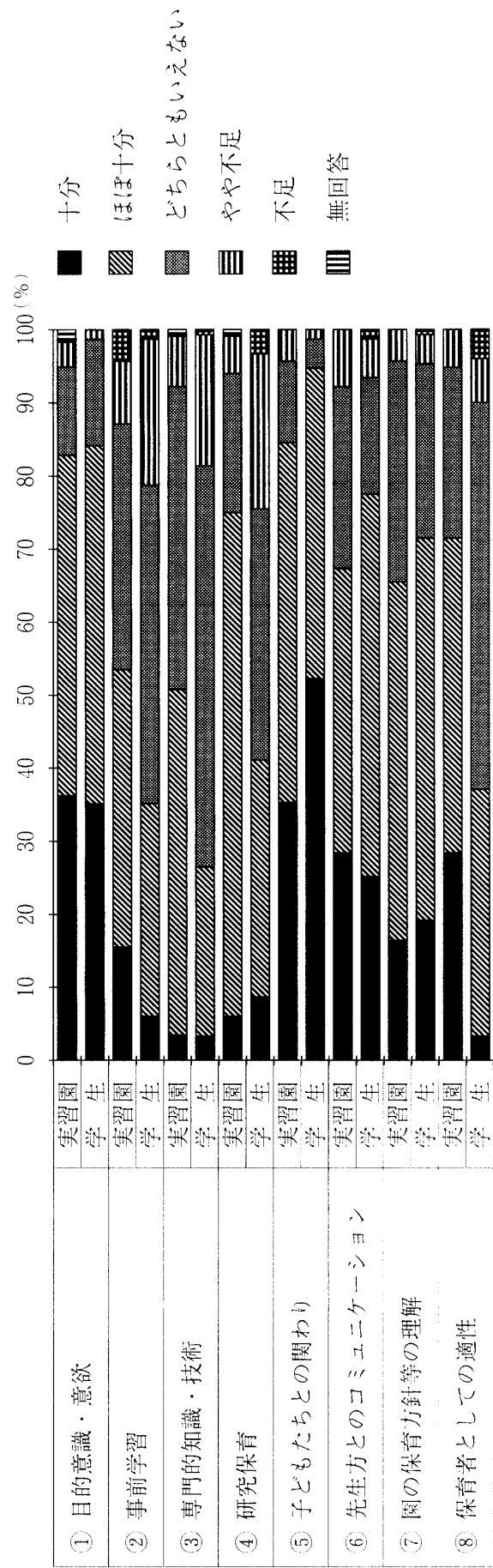
A 2-5(1). 実習を終えて、充実した実習であったと思いますか (学生)

	実習園	割合 (%)	学 生	割合 (%)
ア. 充実した実習であった	23	19.8	96	63.6
イ. ほぼ充実した実習であった	65	56.1	48	31.8
ウ. どちらともいえない	5	4.3	7	4.6
エ. あまり充実した実習ではなかった	2	1.7		
オ. 充実した実習ではなかった				
無回答	21	18.1		
計	116	100.0	151	100.0



A 1-6(2). (1)で判断された学生の実習の様子として以下の項目についてお答えください (実習園)
 A 2-5(2). (1)でそのように思われた理由として以下の項目について答えてください (学生)

	十分		ほぼ十分		どちらともいえない		やや不足		不足		無回答									
	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)								
①目的意識・意欲	42	36.2	53	35.1	54	46.6	74	49.0	14	12.1	22	14.6	4	3.4	2	1.3			2	1.7
②事前学習	18	15.5	9	6.0	44	38.0	44	29.1	39	33.6	66	43.7	10	8.6	30	19.9	5	4.3	2	1.3
③専門的知識・技術	4	3.4	5	3.3	55	47.4	35	23.2	48	41.4	83	54.9	8	6.9	27	17.9			1	0.9
④研究保育	7	6.0	13	8.6	80	69.0	49	32.5	22	19.0	52	34.4	6	5.1	32	21.2			5	3.3
⑤子どもたちとの関わり	41	35.3	79	52.3	57	49.2	64	42.2	13	11.2	6	4.0	5	4.3	2	1.3				
⑥先生方とのコミュニケーション	33	28.4	38	25.2	45	38.9	79	52.3	29	24.9	24	15.9	9	7.8	8	5.3			2	1.3
⑦園の保育方針等の理解	19	16.4	29	19.2	57	49.1	79	52.3	35	30.2	36	23.8	5	4.3	6	4.0			1	0.7
⑧保育者としての適性	33	28.4	5	3.3	50	43.1	51	33.8	27	23.3	80	52.9	6	5.2	9	6.0			6	4.0



A 1 - 1 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われますか (実習園)

- 次年度の計画や見通しが立たない時期で早すぎる (3)
- 1年前なのでその後受け入れ体制が変わったり不都合が出る (1)

A 1 - 1 イ 適当でなかった → いつが適当であったと思われますか (実習園)

- 新年度の体制が分かる12月頃 (半年前) (2)
- 3学期 (実習3～4ヶ月前) (2)

A 1 - 2 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われますか (実習園)

- 学校からの依頼の方がよい (1)
- 持参のとき予定外の人数であることが多いので、代表者の事前の電話連絡で人数を知らせてほしい (1)
- 文書は早い方がよいが実習生の来園は後でよい (1)

A 1 - 3 オ その他 → ご意見等具体的にお書きください (実習園)

- 4月～5月初旬は忙しい時期なので実習1～2週間前に訪問してほしい (3)
- 打ち合わせしたい時期が実習前指導と重なり実習生の時間が取れないので検討してほしい (1)
- 実習準備のために必要であれば2回でも3回でもよい (1)
- 園内巡回、自己紹介、実習日誌打ち合わせ等1回でもよい (1)
- 多くの業務があるので1回で十分 (1)
- 例年1回しか打ち合わせしていない (1)

A 2 - 2(2) ウ そろって行ったときと別々に行ったときがあった → 理由を具体的に書いてください (学生)

- 実習生の1人が寮生だったので (2)
- お互いの時間が合わなかった (1)
- 連絡ミス (1)

A 1 - 4 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われますか (実習園)

- 遠距離の場合は自動車、バイク通勤にも配慮する必要がある (3)
- 遠距離の場合は誓約書提出、自己責任のもとに自動車を許可している、したいと思う (2)
- 自動車通勤していた (1)
- 国富方面から宮崎市内への徒歩、自転車通勤は適当でなかった (1)
- できるだけ近距離の園で実習するよう指導してほしい (1)

A 2 - 3 その他 → 具体的に書いてください (学生)

- バスと父母の送迎 (4)
- 自転車と父母の送迎 (3)

- 天気の日が自転車、雨の日が父母の送迎（2）
- 自転車とバス（2）
- 徒歩と自転車（2）
- 天気の日が自転車、雨の日が徒歩（1）
- 徒歩と自転車と父母の送迎（1）
- 自転車と自動車（1）
- 自転車とバスと父母の送迎（1）
- 許可を得て父母の送迎（1）
- 許可を得て基本的には自転車、雨の日と荷物の多い日は自動車（1）
- 園から許可があり自分で責任が持てれば自動車通勤でよいと思う（1）

A 1 - 5 実習全般について、お気付きのことやご意見等がありましたら、具体的にお書きください（実習園）

<実習日誌>

- 実習日誌、指導案の指導に時間を取られるので、書き方など基本的なことを指導して実習に出してほしい。環境構成、援助の視点、保育者の配慮などの理解が不十分で、誤字脱字、提出遅れ、訂正忘れなどが見られる（9）
- 実習日誌は見やすいものに、全体が分かるので取り外せるものより一冊で、理解しにくいので事前学習の記録もあるものを、記入の仕方は短大で統一して指導してほしい（3）
- 保育日誌は書きにくそうだったので、こちらで作って書いてもらった（1）
- 学校では記録重視でしょうか、記録にとらわれているが、子どもたちとまずは遊び共感することが大切と思う（1）

<実習前指導>

- 意欲的な学生が多く指導しやすい、実習前指導がよくなされていると思われる（4）
- 実習前教育ではどのような指導がなされるのか、基本的な礼儀作法、電話のマナーについても学習してほしい（3）
- 実習前指導で曖昧なところがあり実習生が留意事項と異なる行動を取っていた（1）

<実習時期、期間、人数>

- 1年保育のため園生活に慣れる時期の二学期に実習は計画してほしい（1）
- 10月中旬頃がよい（1）
- 3週間の実習期間は適当である（1）
- 基本実習を多くして本実習は2週間でよい（1）
- 一、二学期は行事が多いので3週間の実習期間は長い（1）
- 園児減少傾向なので実習生は1人にしてほしい（1）

<実習依頼, 受け入れ>

- 実習生が希望する園であれば取り組む姿勢も違うと思われるので遠距離でもよいのではないか (1)
- 実習生が来ると園全体がしまり現場の先生方も勉強になるので喜んで受け入れたい (1)
- こちらの園の都合を聞かずに卒園生や実習希望者が他園にまわされるのはどうしてか (1)
- 幼稚園教諭になりたくて資格がほしい学生のみ実習させ、単位のためのみの実習は受け入れたくない (1)
- 実習依頼は制服が望ましい (1)

<その他>

- 一日一日のねらいに関連して子どもたちの様子を観察させたらよかったと感じている (1)
- 5段階に区別してあるので、評価するのがなかなか難しい (1)
- 大学入学前に遊び体験のない学生が多く表現力や個性がないので、遊びの研究を深める工夫をしてもらいたい (1)
- 実習アンケートは参考になってよかった (1)

A 2-4 実習全般について、気付いたことや意見等があれば、具体的に書いてください (学生)

- 実習前は3週間は長すぎると思っていたが、終わってみると短かった、1週目は園の生活や流れを知るのに精一杯、2週目に心にゆとりが持てるようになり、3週目はじっくり子どもを観察できたのでちょうどよい実習期間であった (1)
- 学校指定の日誌が使えなかった、反省欄が広すぎる (2)
- 実習前に、日誌や指導案の書き方を詳しく教えてほしい、授業で練習してほしい (1)
- 心理学で色についての心理や絵の中からどんな子どもの心理が読み取れるか教えてほしい、必要を痛感した (1)

A 1-6(2) ①目的意識・意欲 (実習園)

- 幼稚園教諭・保育をめざしているという目的意識が明確で、実習生としての自覚があり、子どもを理解しようとする意欲が見られた (8)
- 積極的な姿勢で活動に必要な準備物などを自分で工夫し用意することが多かった (5)
- 朝礼時にその日の視点を述べるようにしていたので毎日目的意識を持って取り組めた (1)
- 積極的な姿勢が感じられず、受け身で子どもの反応を待つ方が多く、自分から挑戦しようとする気持ちが伝わりにくい (4)
- 実習生としての自覚 (謙虚さ) 不足 (1)

A 2-5(2) ①目的意識・意欲 (学生)

- 意欲は十分あった、自分なりに目標を持って実習に臨んだ (14)
- 毎日の反省を次の目標にしていた (1)
- 自分の持っているものをすべて発揮しようと頑張った (1)
- 幼児理解に力を入れ、そのためにはどうしたらよいか学んだ (1)

- 意欲はあったが十分とはいえない、目的意識に欠けていた (2)

A 1 - 6(2) ②事前学習 (実習園)

- 子どもの観察、実態の理解、楽譜の準備、パネルシアター作製など事前準備が十分 (6)
- 園の図書の利用、担任への相談など教材研究に熱心 (6)
- 手遊び、紙芝居など事前準備が必要 (7)
- 準備・計画した活動を実際指導するための配慮、子どもの実態に即した対応などを学んでほしい (5)
- ピアノ、歌唱指導、折り紙といった教材研究不十分 (4)
- 発達段階について学習してほしい (1)

A 2 - 5(2) ②事前学習 (学生)

- 壁面画、歌やゲームなどの教材、本に目を通したり、図書館で下調べをした (8)
- 1年のとき自主実習に行った (1)
- 紙芝居、手遊びやその月の歌などを自分のものにして準備しておけばよかった (7)
- ピアノの練習がもっと必要である (4)
- 年長児にどれくらいの能力があるのか学習不足 (2)

A 1 - 6(2) ③専門的知識・技術 (実習園)

- 知識・技術は実習の段階で「十分」というのは無理、現場に出て経験によって身につくものと思う (5)
- 手遊び、表現力、言葉かけは十分 (5)
- 新しい教材を探し、手遊びなども生かして子どもたちに興味を持たせて教えていた (2)
- ピアノは上手で言葉かけ、子どもへの接し方も目を追うごとにうまくなった (1)
- ピアノを練習してほしい (5)
- 外遊びのゲームなどの遊び方、活動の工夫やアレンジの方法、子どもの掌握の仕方をもっと知ってほしい (5)
- 与える、させるという保育が見られたが、子どもに考えさせたり試させたりすることも大事である (1)
- 「まだできない」と諦めているが、克服するために勉強し自信をつけてください (1)

A 2 - 5(2) ③専門的知識・技術 (学生)

- ピアノはきちんと弾けた (2)
- 先生方を見て自分の保育を反省し、知識・技術が足りないことを痛感した、学ぶことばかりだった (5)
- 楽しい遊びをあまり知らず、子どもたちに教えられなかった (1)
- 子どもの発達段階が把握できていなかった (1)
- 言葉かけが非常に難しい (1)
- 子どもがケガをしても戸惑い先生に任せていた(1)

A 1 - 6(2) ④研究保育（実習園）

- 準備物の工夫，子どもの技能・発達段階を理解した題材設定でスムーズにいった（7）
- 要を得ない面はあるが，準備万端，意欲十分な取り組みであった（2）
- 学生には2回の研究保育は大変だったと思う（2）
- 事前の熱心な教材研究と子どものダイナミックな活動にスケールの大きさを感じた（1）
- 助言し総合保育の方向へ導いて計画したが，一日の流れがスムーズにすすみ遊び込めた保育となった（1）
- 自主的に指導者に相談する姿があり意欲が伝わって，助言を生かした研究保育へつながった（1）
- ハプニングが起こったが，子どもたちの意見を大切にしながら対処していた（1）
- 「言葉」の領域だったが，事前に子どもたちに投げかけ興味を持たせたりと意欲が見られた（1）
- 「体育遊び」をしたが，子どもにつくらせた遊具を有効に使った（1）
- 「表現遊び」をしたが，保育者自身が楽しむことを実践していた（1）
- 研究保育は指導者の指導力も問われるので園側にも勉強になる（1）
- 事前準備・配慮十分で面白い内容だったが，個人的指導が多く全体を把握できず残念（2）
- 準備よく楽しい活動ができたが，子どもの意欲・イメージが広がる言葉かけがほしい（1）
- はじめは立っていたり口で子どもを動かしがちであったが，徐々に子どもとともに動いた（1）
- 子どもに助けられたようであるが，子どもたちは楽しんでた（1）
- 得意な分野を取り上げたが，苦手な分野も経験させればよかった（1）
- 教材研究不足（4）
- 導入部分の説明とまとめの部分が不十分（2）

A 2 - 5(2) ④研究保育（学生）

- 実習に行く2～3ヶ月前から2，3準備しておいた方がよい（5）
- 自分で決めたテーマをまず自分で試して研究して行なった（2）
- アドバイスを受け気付いたことが多く，きちんとしたものができた（2）
- 子どもたちと楽しくでき，喜んでくれたのでうれしかった（2）
- 子どもたちは飽きずに楽しんでくれたが，すべての子どもに目が行き届かず反省した（2）
- 決めるのが遅く準備が遅れ教材研究不足で，ねらい，配慮，環境構成は不十分だった（8）
- 時間配分，導入と説明の仕方を考えればよかった（4）
- 実際に教える立場になると，思い通りにならず予想しない行動をとったり戸惑うことばかりであった（2）
- 子どもの発達段階を考慮せず，独りよがりの指導案になりスムーズにいかなかった（1）

A 1 - 6(2) ⑤子どもたちとの関わり（実習園）

- 元気よく活発で，積極的に子どもの中に入り遊びを楽しむ姿が見られた（9）
- いつも笑顔で子どもたちと接して親しまれていた（6）
- 優しく言葉をかけ，一人ひとりを大切にしていた（5）
- 前半表情が硬かったが，後半笑顔が見られその場に応じた言葉かけもできるようになった（1）

- 積極的であってほしい、慣れるのに時間がかかるという印象 (4)
- 全体の中で個を見つめていく、関わっていく力を養ってほしい (3)
- 楽しく遊んでいたが、子どもの気持ちに共感したり感動を表現したりする姿は少ない (2)
- 子どもとよく関わったが、保育者としての主体性が今少し (1)
- 傍観者で、言葉かけ少なく内容も乏しい (1)

A 2-5(2) ⑤子どもたちとの関わり (学生)

- 遊びや活動を通して楽しく関わることができた、子どもたちもなついてくれた (12)
- すぐに受け入れてくれて関わりやすかった、子どもの目の高さで話をしたり聞いたりした (3)
- 自分から関わってこない子はかまってほしいという願望が強く、こちらから関わっていくとうれしそうにする (1)
- もっと全員の子どもと遊びたかった、関わりたかった (3)
- 一緒に遊んだが、どんな言葉かけをしたらよいか、一人ひとりにどう関わっていけばよいか迷った (2)
- 5クラスを2日ずつ受け持ったので、十分関わるという点に欠けた (1)
- 障害児がいてどう接してよいか分からなかった (1)

A 1-6(2) ⑥先生方とのコミュニケーション (実習園)

- 指導教諭によく質問し指摘に耳を傾け、自分の考えや感じたことも述べ指導しやすい (11)
- 疲れを表に出さず保育も他の仕事も自分からよく気付き手伝い、学生らしい謙虚さ明るさに好感がもてる (2)
- 自分の主張を一方的に言うところがあったが、後半他の意見を受け入れ反省していく姿勢に変わった (1)
- 素直、朗らか、謙虚さはよいが、自分からすすんで、伝えたこと日誌に書いたことがすぐ実行できるとよい (2)
- 消極的な面が多い、積極的に気付いたことを質問してほしい (8)
- 担任以外の教諭との交わりが積極的でない (3)
- 今のままでは不安、卒業までに自信がつくよう勉強してほしい (1)

A 2-5(2) ⑥先生方とのコミュニケーション (学生)

- 熱心なご指導で質問しやすく、多くのアドバイスからいろいろと教わり、コミュニケーションは十分取れた (15)
- 楽しく話し合いができ、よくしていただきうれしかった (5)
- 先生方との関わりを通して保育者への願望が強くなった、やり甲斐があり楽しくやっていけそうだと実感した (1)
- 一言で雰囲気が変わったり、先生方は互いに柔らかく優しく話され、言葉遣いはとても大切だと思った (1)
- 担任や主任の先生以外とはあまり会話ができなかった (3)

- 自分のことをしっかり見てくれていないのではないかと思った(1)
- 本音と建て前を痛感した(1)

A 1-6(2) ⑦園の保育方針等の理解(実習園)

- 事前打ち合わせ, 園内研修会で勉強する中で理解し実習に臨んでいたと思う(5)
- 子どもの行動や言葉を待つ姿勢, 日誌の感想から, 理解していると思った(4)
- 園生活の流れや子どもに慣れるのに精一杯で, 園の保育方針の理解は難しかった(3)
- 子ども個々に目標を立てて保育しているが, 実習生の判断で接することがあり困った(1)

A 2-5(2) ⑦園の保育方針等の理解(学生)

- 園長先生がプリントして説明してくださったので十分理解できた(2)
- 自分なりに理解できた(2)
- 最初は疑問を持ったが, 自分にも合っていると思った(2)
- 先生方の意欲が伝わって素晴らしいと思った(1)
- できるだけ見守って, ときに手を貸していた(1)
- 仏教関係で難しかった(2)
- 一斉保育で少し戸惑った(1)
- 子どもの見方や関わり方に疑問を持った, 反省会では違う意見が出て結局理解できないままだった(1)

A 1-6(2) ⑧保育者としての適性(実習園)

- 真面目, 子ども好き, 一つ一つに感動する素直な性格, 何事にも意欲を持って取り組み適性は十分(7)
- 保育者として素晴らしい適性を持っている(6)
- いつも笑顔で, 子どもの目の高さで接し, 細かいところに目を配り, 子どもたちとの関わりを大切にしていた(4)
- 親切で安心感はあるが, 腕白な男の子は苦手のように悪いことを注意できない指導力や先導力に欠ける(2)
- 積極性や存在感がなく活気を感じない, 行動に機敏さがほしい, 自分を十分表現できないタイプのような(6)
- 苦手分野をそのままにして, 総合的に学ぶ意識に欠けていた(1)

A 2-5(2) ⑧保育者としての適性(学生)

- もっと勉強して経験を重ね保母になりたい(3)
- 他から見てのことは分からないが, 自分では適していると思う(3)
- 子どもたちに溶け込んで楽しく活動でき, 目を追うごとに全体に目が届くようになってよかったと思う(2)
- 楽しいけど大変だと思ったが, 頑張ればできそうな気がする(1)

- 子どもたちの興味関心を引くことができず、子どもをまとめることができなかった (2)
- 楽しいがづらい、やっていけそうにない、自信がなくなった (2)

A 1 - 6(2) ⑨その他 → 具体的にお書きください (実習園)

- 熱心に取り組み助言を謙虚に受け止め、実習マナー・勤務態度良好 (8)
- 園をよく理解しやる気十分で見えていて楽しい、本当によくやっていただいた (3)
- 幼児教育に携わろうと将来を決めている人は違う、真面目に意欲的に取り組む姿勢に好感が持てた (1)
- 卒園生で園に溶け込んで子どもを見る目や理解・判断力も優れ、大学の指導も行き届いていたと思われる (1)
- よく気が付き園庭の掃除など環境美化に努め、指導者に対して指導をお願いする姿勢が見られる (1)
- 環境に適応できる、人との関わり方も十分 (1)
- 保育者は笑顔が不可欠、絶えず笑顔で接し安心感を与えている (1)
- 実習日誌に観察記録や考察がきちんとなされ、子どもをどう把握し指導をすすめていけばよいか考えていた (1)
- 前向きに自分なりに判断し行動することが必要で問題意識を持った実習が望まれるが、今回はよかった (1)
- 子どもたちとも十分に関わりお願いしたことはしっかりできていたが、意欲的な態度や積極性がほしい (6)
- 大変よく勤務していただいたが、声量が足りないので教育をお願いしたい (1)
- 素直でよく気が付くが、音楽領域が苦手な人が多い (1)
- 挨拶、言葉遣い、礼儀など基本的なことが不十分な学生が多い (4)
- 実習日誌に記録した内容を自分で分析考察して、的確な保育のとらえ方を身につけてほしい (1)
- 健康管理をきちんとし、生き生きとした態度で実習してほしい (1)
- 実習させていただいているという気持ちに欠ける (1)

A 2 - 5(2) ⑨その他 → 具体的に書いてください (学生)

- 保育者が不安がると子どもは敏感に感じ取るので、失敗を恐れず常に前向きの姿勢が大切であることを学んだ (1)
- 多くのことを経験させていただいたが、もっと勉強したい (1)
- 言葉かけがうまくいかず慣れてきた頃に終わって残念、3週間でなく1ヶ月だとよかった (1)
- 自分からすすんで時間をいただいたりしなかったのが一番の反省点 (1)
- 実際子どもと接して理解できることがたくさんあった (1)
- 短大での授業も大切だが、実習はそれ以上に大切だと身を持って感じた (1)
- よい園に出会い、とても充実して毎日楽しくできた (1)
- 子どもたちだけでなく、父母とのコミュニケーションもしっかり成立していると思った (1)

「保育所実習についてのアンケート」集計結果

B 1-1. 実習依頼の時期は適当であったと思えますか（実習園）

	回答数	割合 (%)
ア. 適当であった	94	94.0
イ. 適当でなかった	4	4.0
ウ. どちらともいえない	2	2.0
計	100	100.0

B 2-1(1). 依頼状を持参して、実習園にあいさつに行ったのはいつですか（学生）

	回答数	割合 (%)
ア. 平成7年6月以前にあいさつに行った	7	4.6
7月にあいさつに行った	32	21.1
8月にあいさつに行った	22	14.5
10月にあいさつに行った	5	3.3
11月以降にあいさつに行った	22	14.5
イ. あいさつに行ったが、期日を忘れた	59	38.7
ウ. あいさつに行かなかった	4	2.6
無回答	1	0.7
計	152	100.0

B 2-1(2). 実習園にあいさつに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか（学生）

	回答数	割合 (%)
ア. 全員そろってあいさつに行った	57	37.5
イ. 実習生は自分一人だけだった	92	60.5
ウ. 別々にあいさつに行った		
無回答	3	2.0
計	152	100.0

B 1-2. 実習依頼の手続きは適当であったと思えますか（実習園）

	回答数	割合 (%)
ア. 適当であった	92	92.0
イ. 適当でなかった	4	4.0
ウ. どちらともいえない	4	4.0
計	100	100.0

B 1-3. 実習前打ち合わせの回数は適当であったと思われますか（実習園）

保育実習Ⅰ（2月の実習）

	回答数	割合(%)
ア. 2回以上必要	1	1.0
イ. 1回が適当	92	92.0
ウ. 必要ない		
エ. その他	2	2.0
無回答	5	5.0
計	100	100.0

保育実習Ⅱ（11月の実習）

	回答数	割合(%)
ア. 2回以上必要	5	5.0
イ. 1回が適当	84	84.0
ウ. 必要ない	4	4.0
エ. その他	3	3.0
無回答	4	4.0
計	100	100.0

B 2-2(1). 実習園との実習前打ち合わせに行きましたか（学生）

保育実習Ⅰ（2月の実習）

	回答数	割合(%)
ア. 平成7年12月に行った	1	0.7
平成8年1月に行った	21	13.8
平成8年2月に行った	75	49.3
イ. 打ち合わせに行ったが、期日を忘れた	50	32.9
ウ. 実習園より指示され、行かなかった	5	3.3
エ. 自分の判断で行かなかった		
オ. その他		
計	152	100.0

保育実習Ⅱ（11月の実習）

	回答数	割合(%)
ア. 平成8年10月に行った	5	3.3
平成8年11月に行った	104	68.4
イ. 打ち合わせに行ったが、期日を忘れた	13	8.5
ウ. 実習園より指示され、行かなかった	27	17.8
エ. 自分の判断で行かなかった	1	0.7
オ. その他	2	1.3
計	152	100.0

B 2-2(2). 実習園との実習前打ち合わせに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか (学生)

	回答数	割合 (%)
ア. すべて全員そろって打ち合わせに行った	54	35.5
イ. 実習生は自分一人だけだった	93	61.2
ウ. そろって行ったときと別々に行ったときがあった	2	1.3
無回答	3	2.0
計	152	100.0

B 1-4. 実習の通勤手段は適当であったと思えますか (実習園)

	回答数	割合 (%)
ア. 適当であった	90	90.0
イ. 適当でなかった	6	6.0
ウ. どちらともいえない	4	4.0
計	100	100.0

B 2-3. 実習園への通勤手段は何でしたか (学生)

	回答数	割合 (%)
ア. 徒歩	48	31.6
イ. 自転車	67	44.1
ウ. バイク	2	1.3
エ. 自動車	23	15.1
オ. バス		
カ. 父母の送迎	8	5.3
キ. その他	4	2.6
計	152	100.0

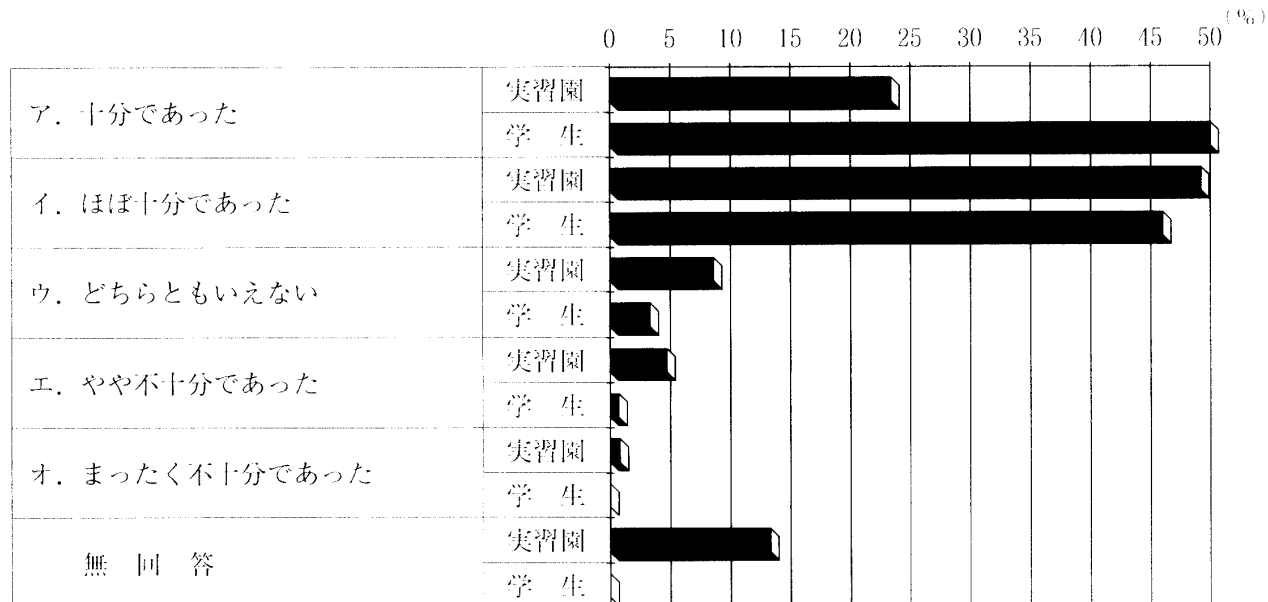
B 1-6(1). 保育実習ⅠⅡを通して、学生の実習の様子をご覧いただいて、よい実習ができていたと思えますか (実習園)

B 2-5(1). 保育実習ⅠⅡを通して、よい実習ができたと思いますか (学生)

	実習園	割合 (%)	学生	割合 (%)
ア. 十分であった	30	23.4	76	50.0
イ. ほぼ十分であった	63	49.2	70	46.0
ウ. どちらともいえない	11	8.6	5	3.3
エ. やや不十分であった	6	4.7	1	0.7
オ. まったく不十分であった	1	0.8		
無回答	17	13.3		
計	128	100.0	152	100.0

B 1 - 6(1). 保育実習ⅠⅡを通して、学生の実習の様子をご覧いただき、よい実習ができていたと思われませんか（実習園）

B 2 - 5(1). 保育実習ⅠⅡを通して、よい実習ができたと思いますか（学生）

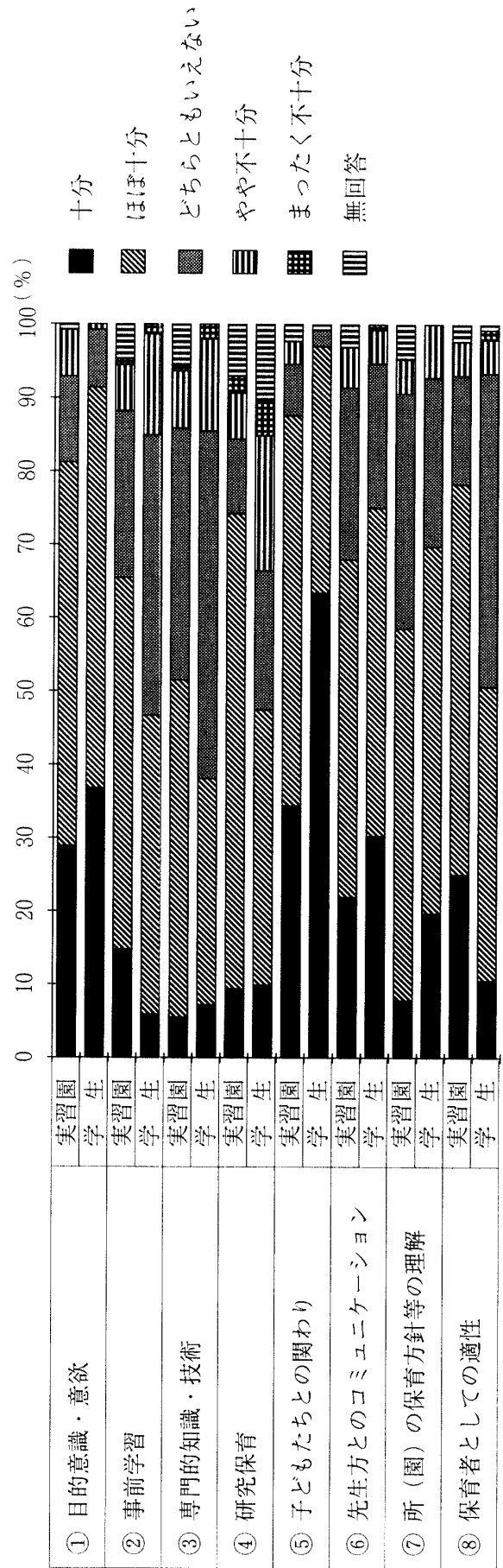


B 1 - 6(2). (1)で判断された学生の実習の様子として以下の項目についてお答えください (実習園)

B 2 - 5(2). (1)でそのように思った理由として以下の項目について答えてください (学生)

	十分		ほぼ十分		どちらともいえない		やや不十分		まったく不十分		無回答													
	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)	実習園割合(%)	学生割合(%)												
①目的意識・意欲	37	28.9	56	36.8	67	52.3	83	54.6	15	11.7	12	7.9	8	6.3	1	0.7		1	0.8					
②事前学習	19	14.8	9	5.9	65	50.7	62	40.8	29	22.7	58	38.2	8	6.3	21	13.8	1	0.8	2	1.3	6	4.7		
③専門的知識・技術	7	5.5	11	7.2	59	46.0	47	30.9	44	34.4	72	47.4	10	7.8	19	12.5	1	0.8	3	2.0	7	5.5		
④研究保育	12	9.4	15	9.9	83	64.8	57	37.5	13	10.2	29	19.1	8	6.3	28	18.4	3	2.3	7	4.6	*9	7.0	**16	10.5
⑤子どもたちとの関わり	44	34.4	102	67.1	68	53.2	46	30.2	9	7.0	3	2.0	4	3.1							3	2.3	1	0.7
⑥先生方とのコミュニケーション	28	21.9	46	30.3	59	46.1	68	44.7	30	23.4	30	19.7	7	5.5	7	4.6			1	0.7	4	3.1		
⑦所園の保育方針等の理解	10	7.8	30	19.7	65	50.8	76	50.1	41	32.0	35	23.0	6	4.7	11	7.2					6	4.7		
⑧保育者としての適性	32	25.0	16	10.5	68	53.2	61	40.1	19	14.8	65	42.8	6	4.6	7	4.6			2	1.3	3	2.3	1	0.7

* 研究保育をしていない 4 (3.1%) を含む
 ** 研究保育をしていない 16 (10.5%) である



B 1 - 1 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われますか (実習園)

- 依頼と実習が離れ過ぎて、半年も前では忘れる (2)
- 職員が交代で夏期休暇を取るため十分な指導ではなかった (1)
- 公立は一緒に市に受け入れ伺いをするので早めに持ってきてほしい (以前9月に持ってきた) (1)

B 1 - 1 イ 適当でなかった → いつが適当であったと思われますか (実習園)

- 年度末3月位から予定を年間計画に入れたい (1)
- 実習のある年度内 (1)
- 5月末～6月はじめ (1)
- 1ヶ月位前 (1)

B 1 - 2 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われますか (実習園)

- 保育所で内諾できないので返事が遅れる場合があるかも (1)
- 内諾→正式依頼でよい (1)

B 1 - 3 その他 → ご意見等具体的にお書きください (実習園)

- 自主的に、本人次第、本人の希望で、1回以上 (4)
- 電話でもよいが保育所の様子が分かり子どもたちの期待もあるので来ていただく方がよい (1)
- 未満児クラス複数担任なので1回でよい (1)
- 学生は多い方がよいと思うが受け入れ側は1回でよい (1)

B 2 - 2(2) ウ そろって行ったときと別々に行ったときがあった → 理由を具体的に書いてください (学生)

- 誰と一緒に分らず自分一人で行った (1)
- IIで新しく1名加わったが連絡できず3人で行った (1)

B 1 - 4 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われますか (実習園)

- 遠距離、冬場、雨、地域を考慮して自動車通勤を認めてもよいのではないか (4)
- 遠距離、地域によってはバイクの許可があつていい (2)
- 通勤距離が短く適当であった、よかった (2)
- 公共交通機関、バスも認めている (2)
- 自動車、バイクでもよいが事故の責任は負えない (1)
- 冬は暗くなるので自転車は心配 (1)
- 徒歩、自転車通勤はできないので送迎してもらった (1)
- 実際は自動車に来ていた (1)

B 2 - 3 キ その他 → 具体的に書いてください (学生)

- 徒歩と自転車 (3)

- 園長先生にすすめられ迷った末に車通勤した，自動車を許可してもらった (2)
- バイクと自動車 (1)
- 父の勤務先の近くだったので送迎 (1)

B 1 - 5 実習全般について，お気付きのことやご意見等がありましたら，具体的にお書きください (実習園)

<実習時期，人数>

- 発表会を控え忙しく指導が十分できない，通常の保育を経験できないので，保育実習Ⅱを10月中旬～11月上旬に繰り上げることはできないか，運動会とお遊戯会の時期は避けてほしい (15)
- 運動会やお遊戯会の片方でも保母として経験させる方が実務的にプラスではないか (1)
- 2年間に渡る実習では同じ子どもの成長を見られないので，同じ年度に2回にしてもらった方がよい (1)
- 行事で忙しく日誌を見るのが大変なので，実習生は2名までがよい (2)

<実習前指導>

- 実習生が事前に電話で園の都合を聞いて来園するのはよい (1)
- 子どもを見る視点を指導してほしい (1)
- 実習生留意事項を徹底していただきたい (1)
- 書類の提出，挨拶など指導することが多かったが，学校で指導してもらった方がよい (2)
- 日誌や指導案の書き方を徹底していただきたい，現場ですぐやっつけていけるかは短大での指導も必要，実習期間だけでは足りない (3)

<実習依頼，受け入れ>

- 実習意欲が職員に伝わり，実習生は保母の指導を学び，保母は初心を思い出し，園にとっても勉強になる，十分な力添えができず心苦しいが職員の啓蒙につながった (2)
- 夏休みに自主実習があればよかった (1)
- 「なぜ保母を選んだか」「どんな保母になりたいか」というようなテーマの作文を実習前に提出してほしい (1)
- 保母になる気のない学生が実習に来ることがありがっかりすることがある (1)
- 実習依頼にピアスをつけてきたが，ピアス，イヤリングはつけないことにしている (1)

<その他>

- 今回のように実習生の成長を見たのははじめてのような気がする (1)
- 保育園は家事・育児的な部分もあるので，学生の家庭環境，そこで家事を手伝っているか，幼児と常に接しているかで差が出る (1)
- これからの保母には地域との関わりや母親への援助など時代の要望に対応できる力量が求められている (1)
- 個人差はあるが，少子化で子どもに接する機会が少ないので，実習を重ねる中で将来も見据えて

援助したい (1)

- 学校指定の、子どもが読みやすいひらがなの名札を作ってほしい (1)

B 2 - 5 実習全般について、気付いたことや意見等があれば、具体的に書いてください (学生)

- お遊戯会前で忙しく園に迷惑がかかる、就職活動と重なるので、もう少し早い時期にしてはどうか (2)
- 発表会の時期だったので、研究保育をすることができなかった、30分程度だった (2)
- 1つだけでなくいろんな園を見てみたい (1)
- 2回目はもう少し長くやりたいと思った (1)
- 保母の仕事は学んでいくものと思うが、実習日誌の記入の仕方は学校で教えてほしい (1)
- 学校でも研究保育のアイデアや実習をやった方がよい (1)

B 1 - 6(2) ①目的意識・意欲 (実習園)

- 目的意識が明確で意欲旺盛、積極的に質問したり行動したりしている (7)
- 真面目に一生懸命取り組み、熱意、意欲十分 (7)
- 保母として就職が内定し、現場への興味や期待感が感じられた (3)
- 保育実習 I より心構えや態度がよく意欲的で、I の反省点を生かして取り組んでいる (3)
- 当園への就職希望を申し出て意欲的 (1)
- ● 意欲は感じられるが、おとなしい、明るさがほしい (3)
- 保育実習 I で明るく新鮮、意欲的で II を期待したが、保育者になるという意識が低く傍観者的である (3)
- 幼稚園希望のためか、低年齢児への的確な対応に欠ける (2)
- 気が付いたことは記録するだけでなく、その場で質問してほしい (1)
- 言われて行動することが多く、保育者になりたい意欲に欠ける (1)
- 出勤がギリギリ、余裕を持ってほしい (1)
- 何が大切なことか、若いときにしかできないことを十分考えてほしい (1)

B 2 - 5(2) ①目的意識・意欲 (学生)

- 最後の実習で、保母になるために勉強させていただくという意欲は十分あり、目標を持ち積極的に取り組んだ (9)
- 保母希望で、自分の能力を知るため全力を出して頑張ろう、先生方の子どもとの関わり方を学ぼうと思った (2)
- 保育実習 I では子どもたちの姿を十分に観察し、II でも意欲を持ち積極的に、ともに満足のいく実習ができた (2)
- 保育実習 I では言われてする感じだったが、II ではいくつかの実習を経験して積極的にできた (2)
- 自主実習を体験して子どもたちの名前や性質、特徴が分かっていたので意欲十分で取り組めた (1)
- 実習園に就職することになり意欲は十分であった (1)
- 先生方は発達段階に応じて適切な指導・援助をされている、見習いながら頑張った (1)

- 実習前に考えた目的は実習中に変わっていった、子どもの内面的な部分から目的を考えられるようになった (1)
- アルバイトと実習は違うことを念頭に初心の気持ちで臨んだ (1)
- 公立では直接就職につながらないが、その分気負うことなくできた (1)
- 子どもたちと関われる期待は大であったが、保育者になるための実習という意識が劣っていた (1)
- 発表会やお誕生会などの行事の手伝いも積極的にできない (1)

B 1 - 6(2) ②事前学習 (実習園)

- よく資料や教材を整えて学習し、実習日誌も翌日にはきちんと提出されている (6)
- 子どもたちとコンセンサスを図り、ねらいを決めパネルシアターを製作、指導した (3)
- パネルシアターを製作し持ってきた (3)
- 保育実習 I で子どもの実態と園の流れを把握していたので、スムーズにいった (2)
- 事前学習不十分、指示を待つことが多い、保育実習 I の日誌を復習してほしい (5)
- どのくらい学習しているかこちらではつかめない (2)
- カリキュラムの理解不十分、観察実習から実際への移行が理解されていない (1)

B 2 - 5(2) ②事前学習 (学生)

- 絵本、紙芝居を図書館で借りて読み込む、前回の実習日誌やノートの見直し、ピアノや歌・手遊びの練習、日誌の書き方や発達段階を調べるなどの準備をした (7)
- 保育実習 I で学んでいたもので、II ではすんなり実習に臨むことができた (1)
- 実習経験と短大で学んだことを関連させるようにした (1)
- ピアノや歌・手遊び、発達段階、日誌の書き方、研究保育の内容などもっと勉強しておけばよかった (6)
- 乳児保育所では調乳やおむつ交換があった、ミルクの作り方を復習しておけばよかった (1)
- 実習中に身につけようと思っていたので、特にしていない (1)

B 1 - 6(2) ③専門的知識・技術 (実習園)

- 知識も身につけており、子どもへの接し方、援助の仕方もよい (4)
- 保育実習 I と比べて随分成長した、短大で学んでいることは大切なんだと実感した (3)
- ピアノが上達している (3)
- あまり求めている、意欲があれば十分、学生としてはこの程度のもの (2)
- 知識はほぼ十分と思うが、技術は身につけていない、まず子どもをどう引きつけるか研究するとよい (2)
- もっとピアノの練習をした方がよい (5)

B 2 - 5(2) ③専門的知識・技術 (学生)

- 実習を重ねるたびに身につけていくと思う、子どもに合わせた言葉かけ、乳児のおむつ交換、食事の介助、ピアノなど上手になった (9)

- 看護学生と一緒にの実習だったので、保母としての知識・技術はどんなものか意識しながら取り組んだ(1)
- ピアノ、遊びの導入が難しく最後まで思うようにいかなかった(2)
- 自分では分かっていたつもりでも、あらためて気付くこと身につくことが多かった(2)
- 0歳児クラスが導入され、今まで接したことのない乳児に戸惑った(2)
- 年齢や月齢に応じた保育を学ぶ必要を感じた(1)
- 短大で学んだことだけでは足りない、これまで実習で学んだことを十分活用できず残念(1)

B 1 - 6(2) ④研究保育(実習園)

- 指導案も2～3日前にきちんと書き上げ、準備、内容ともに実習生としては十分(12)
- 優しい笑顔、分かりやすい言葉、手遊びも動作が大きく、子どもたちも興味を持って活動した(4)
- 「パネルシアター交通信号」「変身なぞなぞかくれんぼ」など共同作品が立派にできた(3)
- 子どもへの対応の仕方など研究し、保母の助言を受け準備万全、子どもと楽しむ姿勢に好感が持てた(1)
- いつも自分の世界で遊んでいる子どもたちも集中、興味を持って取り組んだ(1)
- 「砂絵」で子どもたちが興味を示し前日の染色から目を輝かせていた、学校で何かしているのでしょうか(1)
- 時期をとらえた内容で準備もよく、日頃の保育で子どもとのつながりができていてスムーズにいった(1)
- 上手なピアノを使った「表現遊び」だったが、子どもの対処が分からずピアノが生かせなかった(1)
- 未満児クラスで20分間よく関心を持たせたが、前後を工夫するとよい(1)
- 素敵な内容だったが、準備・勉強不足と保育への甘さが出て子どもたちを楽しませることができなかった(1)
- 教材の準備はよかったが、2回とも「造形」だったので1回は他の分野に取り組んでもよかった(1)
- はじめての経験で力みすぎ、内容を詰め込みすぎた(1)
- 新聞紙を使ったが、子どもたちの製作部分が少なく、完成時の締めくくりもほしい(1)

B 2 - 5(2) ④研究保育(学生)

- 準備十分で本番もよくでき、心から子どもと楽しめ、ねらいは達成できた(4)
- 実習前から材料を集め実験に実験を重ねて子どもにもできるおもちゃ作りができた(1)
- 保育所のカリキュラムを十分に理解し子どもたちが興味のあるものを用意しておくとうよい(1)
- 研究保育を終えてこうすればよかったと思ったが、子どもたちが喜んでくれた(6)
- 内容はよかったが、計画した時間内に終わらなかった、導入の仕方や終わりのまとめ方が不十分だった(4)
- 一生懸命やったが、準備・研究不足、不十分な点や反省点がたくさんあった(7)
- 子どもたちの行動を予想したが、予想外の行動で流れが変わった、配慮不十分、一人の子どもに

かかりすぎ全体が把握できなかった (5)

- ダウン症の子どものことを考えずに内容を考えてしまった (1)

B 1 - 6(2) ⑤子どもたちとの関わり (実習園)

○積極的に子どもたちの中に入り活発に遊び、親しまれている (16)

○子どもたちの自発的な活動を大切に一人ひとりを受容してていねいに関わり、子どもがなついている (11)

○未満児は抱っこし、年長児とは伝承遊びなど戸外でよく遊び、年齢に応じた関わりができていた (2)

●子どもたちの自主的、主体的活動を大切にしつつ援助もあってよい、一歩入り込む努力がほしい (4)

●未満児クラスでは乳児との関わりに戸惑いがあるが、スキンシップ、声かけがあるとよい (2)

●寄って来る子どもとの関わりは十分できるが、自分から来られない子どもへの対応にまで気持ちがいかない (2)

B 2 - 5(2) ⑤子どもたちとの関わり (学生)

○保育実習 I で知っている子どもが多く一緒に楽しく遊べた、一人ひとりに十分関わった (17)

○保育実習 I より自分の立場を考えて接し、子どもの名前を覚え思いっきり遊び、なつてもらえた (6)

○保育実習 I で名前や特徴を知り、II では深く性格なども把握して、一人ひとりとの関わりを大切にした (4)

○配慮していただいて、年少、年中、年長の子どもたちと関わりを持つことができた (4)

●楽しく遊んだが、関わる子どもが偏っていて目の届かない子どももいた (2)

●子どもたちの前で話をするのが苦手なため、積極的に話すことができなかった (1)

B 1 - 6(2) ⑥先生方とのコミュニケーション (実習園)

○分からないところは質問し、助言に素直に耳を傾け、学ぶ姿勢を持ち、積極的に意見も言え、対話は十分 (13)

○指導を受け入れて、保母からも好意的に受けとめられていた (4)

○いつも笑顔を絶やさない (3)

○先生方との対話を大切にして保育内容の理解に努めた (2)

○実習も 2 回目で、リラックスして指導を受けていた (2)

●控えめなのでもっと積極的であってほしい、話しかけるとにこやかに話す自分からはもう一歩 (12)

●発表会の準備などで多忙で、十分コミュニケーションが取れず心苦しく思っている (4)

●保母への遠慮があり、十分力を出し切っていない (3)

●休憩時間は和やかに過ごすようにしているが、今回は対話の機会が少なかった (1)

●人と親しむのに時間がかかるタイプで、コミュニケーション不足 (1)

B 2 - 5(2) ⑥先生方とのコミュニケーション (学生)

○とても親切にしてくださり、たくさんの助言や指導をいただき、積極的に質問や相談ができコミュ

ニケーションは十分 (18)

- 資料や体験談を教えてください、就職などプライベートなことについても相談に乗ってくださった (5)
- 先生方の姿もよく観察し、質問し、アドバイスをよく聞き、メモを取ることも必要 (2)
- 職員間のチームワークがよくいい雰囲気で接していただき、このような職場なら楽しいだらうと思った (2)
- 挨拶、笑顔で関係が保てた (1)
- 担当の先生とはコミュニケーションできたが、他の先生方とは難しかった (3)
- お遊戯会で忙しく、保育実習ⅡよりⅠの方がよく質問していた (3)
- もっと話をしたかった (3)
- 先生方との関係が成り立たないと実習がやりづらい (1)

B 1 - 6(2) ⑦所(園)の保育方針の理解(実習園)

- 保育実習ⅠⅡを通して、保育実習Ⅰより、理解されている、学んでいる、保育方針にしたがっている (11)
- 笑顔で子どもや保護者に対し、すすんで清掃するなど方針を理解して行動していた (3)
- 保育所の中で大切にしている「育てる」心を受け取ってあればよい (1)
- 短期間で慣れることに精一杯で、十分な理解は無理と考える (3)
- 保育実習Ⅰで理解したと受け取ったが、Ⅱでは説明不十分と反省している (3)
- 消極的で自ら質問することがなく、理解しようとする態度が不十分 (2)

B 2 - 5(2) ⑦所(園)の保育方針の理解(学生)

- 園長先生や先生方が話していただき理解できた (5)
- 2回の実習でほぼ理解できた (3)
- 子どもらしい芽をのびのび育てようとしていた、主体性を育てようとしていた (4)
- 同系列の幼稚園で育ったので、仏教関係だったが違和感はなく優しい気持ちになれた (1)
- 午前中設定保育、午後自由保育で自分の好きな形態でやりやすかった (1)
- 「裸の王様になろう」の方針のもとで実習に臨んだ (1)
- モンテッソーリ教育についての知識が不十分だった (1)

B 1 - 6(2) ⑧保育者としての適性(実習園)

- 親切で優しく子どもから好感を持たれている、素敵な保母になれる素質は十分 (9)
- 記録から理解力があり、子ども好きなようなので、課題に気づき克服する努力次第でよい保母になれると思う (7)
- 保育者としての観察力、知性、感性などを高め、明るく潑刺とした若さや人に優しい柔らかさを求めます (5)
- 意見を聞き学ぶ姿勢があるので成長すると思う (1)

- 適性は実習期間では分からないが、本人次第だと思う (1)
- 視野が広く考え方も前向きで、型にはまらない部分が楽しみ (1)
- 保育者としての感性や子どもと共感する表現力がやや不十分 (1)
- 子どもの相手が少々苦手なようだが、身近に子どもがいないのも一因か (2)

B 2 - 5(2) ⑧保育者としての適性 (学生)

- 保育者になりたいという意志が固まった、仕事にやりがいを感じ自己発揮できる職業だと思うことが多かった (7)
- 自分では適性があるか自信はないが、頑張れたと思う (4)
- 幼稚園希望だったが、実習で迷うようになった、経験は大切だと思った (1)
- 知的障害児もいて難しかったが、子どものペースに合わせることが大事であることが分かった (1)
- 体調を崩して考えさせられた (1)

B 1 - 6(2) ⑨その他 (実習園)

- アドバイスに素直に耳を傾け、日誌によい気づきがたくさんある (1)
- 日誌を読むたびによく観察していると感じる、慌ただしさの中で見逃していたことを思い出させてくれる (1)
- 意欲的に取り組み担当保母も高く評価している、是非保母になってほしい (1)
- 地味な努力ができる学生だった (1)
- 学生らしく身なりもきちんとして、私語もせず感心した (1)
- 先生方、父母への挨拶、「お願いします」「指導して下さってありがとう」の気持ちを忘れずに (2)
- 社会的常識を身につける必要がある、本をあまり読んでいない (1)
- 数ヶ月後には職場の歯車として努めなくてはならないが、自分が太陽でまわりを動かそうとする面がある (1)
- 辞書を手元に置いて確認して書く (1)
- 専門用語を覚え、予想される保育を毎日文章化して実際と照らし合わせていくことの繰り返しが必要である (1)
- 日誌を自分の都合のよいときに提出して職員から不満が出た (1)

B 2 - 5(2) ⑨その他 (学生)

- 園の評価を見せてほしい、悪いところは直したい (1)
- 学校での授業も大切だが、体験を交えた実習はそれ以上に大切で勉強になった (1)
- 意欲を持って取り組めば楽しい実習になる (1)
- 子どもとの接点をつくり楽しんで保育する必要がある (1)

V. 結果について

1 実習依頼の時期について

- 本学では1年次に、幼稚園は5月下旬、保育所は6月上旬までに学生が提出した実習願をもとに配当表(案)を作成し、夏季休業中に学生自身が実習園に依頼状を持参、内諾を得て12月上旬に正式に依頼状を発送している。この時期を適当であるとするのは、幼稚園87.7%、保育所94.0%に上り、実習依頼の時期は適切であるといえる。
- 適当でなかったとする実習園が幼稚園では1割近くあり、「依頼と実習が離れ過ぎ」(幼稚園)「次年度の見通しが立たない時期で早い」(保育所)といった意見もわずかながらみられる。実習打ち合わせ会、実習訪問等々で状況を説明するなどの対応が考慮されるべきである。
- 学生が実際に依頼状を持参した時期は、指導している7～9月は幼稚園57.6%、保育所35.6%にとどまり、「期日を忘れた」と事前打ち合わせと混同していると思われる「4～6月に行った」を合わせると幼稚園、保育所実習ともに4割を超えている。前年度調査でも同様の傾向であった。依頼についての十分な自覚がなされていないことは問題である。
- 「公立と一緒に市に伺いを出すので早めに持ってきてほしい」(保育所)については、依頼状を配布する際に、該当学生に徹底すべき要望である。

2 実習依頼の手続について

- 「適当であった」とするのは、幼稚園、保育所ともに9割以上である。従って、実習園には一連の手続(学生が依頼状持参→内諾をいただく→正式依頼)がほぼ問題なく受け入れられているといえる。
- 「持参のとき、代表者の事前の電話連絡で人数を知らせてほしい」(幼稚園)については、実習オリエンテーション、依頼状配布時に学生に指導すべき内容である。

3 事前打ち合わせについて

- 幼稚園教育実習では、実習前の4月から6月初旬に、できれば2回実習園を訪問して指導を受けるように指導している。実習園は「2回が適当」66.2%、「1回が適当」32.3%となっている。保育所実習ⅠⅡでは、それぞれ1回ずつ事前指導を受けるように指導している。「1回が適当」とする実習園は実習Ⅰ92.0%、実習Ⅱ84.0%となっている。

これに対して、学生の回答は、幼稚園では「2回行った」およそ4割、「実習園より指示され1回行った」「自分の判断で1回行った」の合計がおよそ6割、保育所実習Ⅱでは「指示され行かなかった」17.8%となっており、実習園の意向と打ち合わせの実態が必ずしも一致していないことがうかがえる。これは、「受け入れ側は1回でよい」「希望があれば2回でも3回でもよい」とあるように、実習園が学生の希望や都合を聞き入れる形で実施されている、あるいは「4月～5月初旬は忙しい時期なので」「多くの業務があるので1回で十分」とあるように実習園の時期的な問題や都合によって実施されているためではないかと推察される。特に、保育所実習Ⅱについては、2度目であることや遠方の学生への配慮によるものと思われる。

従って、実習前指導では、打ち合わせの回数より訪問の時期と回数を話し合う事前連絡を確

実に取り組むことをより強調すべきであろう。

- 事前打ち合わせに学生が「全員そろって行った」「実習生は自分一人だけ」を合計すると、幼稚園98.0%，保育所96.7%である。依頼状持参のあいさつについても同様に、実習園には実習生全員そろって訪問するようにとの指導がよく守られていることが分かる。
- 打ち合わせの期日を忘れていたり依頼の期日と混同している、幼稚園で2回の事前指導を受ける余裕のない時期に初回の打ち合わせに行っているものがみられる。

正確な実態把握と事前指導の検討が必要である。依頼状持参のあいさつと打ち合わせについては、実習記録簿に期日と指導内容をまとめて記録させることも一考ではないかと思われる。

4 通勤手段について

- 幼稚園87.7%，保育所90.0%が原則として徒歩あるいは自転車通勤を適切であるとしながら、距離、地域、季節、天候などを考慮して「自己責任」で自動車通勤を認めた、認めてもよいといった柔軟な対応もみられる。
- 「園長先生にすすめられ迷った末に車通勤した」「天気の日には自転車、雨の日には父母の送迎」「基本的に自転車、雨の日と荷物の多い日は自動車」と、できるかぎり原則に従って通勤しようとする姿勢がみられるが、幼稚園実習でバイク、自動車通勤した学生は17.9%，保育所実習で16.4%と、前年度調査よりそれぞれ約5ポイント増加している。

原則は変えないまでも、距離や季節、地理的条件などの実情を考慮して、実習園と学生の判断にまかせることも検討されるべきであると考えられる。

5 実習内容の評価について

- 幼稚園実習では、「充実した」「ほぼ充実した」実習であったとする実習園が75.9%，学生が95.4%であった。保育所実習では、「十分」「ほぼ十分」よい実習であったとする実習園が72.6%，学生が96.0%であった。これらは、学生自身の実習に対する充実感、達成感の高さとともに、実習園からも概ね高い評価を得ていることを示している。
- しかしながら、実習園の無回答が幼稚園18.1%，保育所13.3%あることは見過ごせない。記入漏れも皆無ではないと思われるが、回答に苦慮した結果であると判断せざるをえない。質問の意図がもっと明確に伝わるような設問、選択肢を論議すべきであった。
- 「十分」「ほぼ十分」のプラス評価の割合が高い順に示すと以下の通りである。幼稚園実習と保育所実習との間に大きな差はないが、学生の自己評価が幼稚園実習に比べて保育所実習の方が伸びているのは「目的意欲・意識」84.1%→91.4%，「研究保育」41.1%→47.4%，「保育者としての適性」37.1%→50.6%，「事前学習」35.1%→46.7%，「専門的知識・技術」26.5%→38.1%である。このことは、複数の実習経験を重ねた最後の保育実習Ⅱで、具体的な保育の内容・方法を身につけ保育者としての力量が向上していることを学生自身が実感していることによるとと思われる。

実習園（幼稚園）

- ①子どもたちとの関わり
- ②目的意識・意欲

学生（幼稚園）

- ①子どもたちとの関わり
- ②目的意識・意欲

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ③研究保育 | ③先生方とのコミュニケーション |
| ④保育者としての適性 | ④園の保育方針等の理解 |
| ⑤先生方とのコミュニケーション | ⑤研究保育 |
| ⑥園の保育方針等の理解 | ⑥保育者としての適性 |
| ⑦事前学習 | ⑦事前学習 |
| ⑧専門的知識・技術 | ⑧専門的知識・技術 |

実習園（保育所）

- ①子どもたちとの関わり
- ②目的意識・意欲
- ③保育者としての適性
- ④研究保育
- ⑤先生方とのコミュニケーション
- ⑥所（園）の保育方針等の理解
- ⑦事前学習
- ⑧専門的知識・技術

学生（保育所）

- ①子どもたちとの関わり
- ②目的意識・意欲
- ③先生方とのコミュニケーション
- ④所（園）の保育方針等の理解
- ⑤保育者としての適性
- ⑥研究保育
- ⑦事前学習
- ⑧専門的知識・技術

- 実習園と学生のプラス評価を比較すると、幼稚園、保育所ともに実習園では「事前学習」「専門的知識・技術」「研究保育」「保育者としての適性」といった保育内容・方法そのものに関わる評価が高く、学生では「子どもたちとの関わり」「先生方とのコミュニケーション」「所（園）の保育方針等の理解」といった人間関係に関わる評価が高い。これは、実際的な保育力を育成したいとする実習園と、実習園に溶け込むところから実習に取り組もうとする学生の立場、意識の違いによるものと思われる。

①目的意識・意欲について

- 実習園の、「教諭・保母をめざしているという目的意識が明確」「子どもを理解しようとする意欲が見られた」「挑戦しようとする気持ちが伝わりにくい」「積極的に行動」「その場で質問」「出勤に余裕を」といった記述内容は、意識・意欲は具体的に表現することが肝要であることを指摘している。
- 「自分なりに目標を持って臨んだ」「保母になるために勉強させていただくという意欲は十分」「先生方の子どもの関わり方を学ぼうと思った」「保育実習Ⅰでは子どもたちの姿を十分に観察」とあるように、学生は実習生としての自覚を持ち意識・意欲を高める努力をしていることがうかがえる。そこで、この意識・意欲を引き出して明確化、具体化する指導が必要と思われる。たとえば、他項で実習園（保育所）から指摘のあった実習前に作文を書く、実習記録簿に目標を明記するなどが考えられる。

②事前学習について

- 幼稚園実習、保育所実習ともにほぼ2割の学生が十分でなかったと回答している。これは、「研究保育」に次いで低い評価である。具体的にはピアノ、歌や手遊び、絵本の読み聞かせや紙芝居、日誌の書き方などをあげているが、実習園の指摘とも一致する。
- さらに、「子どもの実態に即した対応を学んでほしい」との幼稚園からの指摘がある。漫然

と技術の練習をするのではなく、保育者としての配慮や子どもたちへの援助の仕方も念頭に置いた事前学習、準備がすすめられるよう、関連教科の授業などにおいても指導する必要がある。

- それまでの実習体験を生かせる保育所実習では、「子どもたちとコンセンサスを図り」「子どもの実態と園の流れを把握していたのでスムーズにいった」と評価され、学生の成長がうかがえる。

③専門的知識・技術について

- 事前学習同様に、実習園の記述から保育実習での学生の成長がうかがえる。
- 学生の記述には「実習を重ねるたびに身につけていくと思う」とある一方で、「あらためて気付くこと身につくことが多かった」「これまで実習で学んだことを十分活用できず残念」とある。実習園の記述には「現場に出て経験によって身につくものと思う」（幼稚園）「意欲があれば十分、学生としてはこの程度のもの」（保育所）とある。この意識の違いが学生と実習園の評価差につながっていると思われる。

④研究保育について

- 「十分」に「ほぼ十分」を加えたプラス評価は、実習園では幼稚園、保育所ともに3/4に上るが、学生は幼稚園、保育所実習ともに5割に満たずマイナス評価がもっとも高い。学生の記述にみられる一生懸命取り組み子どもたちは楽しんでくれたが反省することが多かったという状況は学生としては当然の姿であろう。
- 実習園の評価は、「ほぼ十分」は高いが「十分」は決して高くない。記述からみると、子どもが楽しんでくれて喜んでいる学生に対して、保育者としての配慮や援助の仕方について個々に不足、不十分な部分を指摘しつつ教材の創意工夫や取り組みの熱心さを認めている。褒めて自信も促しつつ問題点を指摘する実習指導が「ほぼ十分」に反映されていると思われる。
- 保育所実習では、遊戯会などの園行事が多忙で「研究保育」を実施していないが10.5%あった。これは実習時期の見直しを示唆しているとも考えられる。

⑤子どもたちとの関わりについて

- 「遊びや活動を通して楽しく関わることができた、なついてくれた」「保育実習Ⅰで知っている子どもが多く一緒に楽しく遊べた、一人ひとりに十分関わった」と、子どもたちとの関わりを心から楽しんだことが充実した実習体験として受けとめられている。さらに保育実習Ⅱでは「自発的活動を大切にした」「一人ひとりの子どもを受容した」「子どもの目の高さで」などの表現にみられるように、子どもたちに関わる姿勢に保育者としての適切な配慮ができるようになり、保育の力量が経験を通して向上している様子が推察できる。
- しかし、実習園の「全体の中で個を見つめていく、関わっていく力を養ってほしい」「子どもの気持ちに共感したり感動を表現したりする姿は少ない」（幼稚園）「子どもたちの自主的、主体的活動を大切にしつつ援助もあってよい、一歩入り込む努力がほしい」（保育所）という記述は、学生の記述にも反省として出されているが、自分から寄ってくる子どもや一部の子どもに多く関わり全体をみる力がまだまだ未熟であることを指摘している。子どもとの関わりが自己満足に終わることなく保育場面に応じて子どもと保育者の関わりを客観的に観察して考えたり、判断していけるように、実習体験をあらためて見直したり学生同士で討論し

たりする機会が求められる。実習後指導として、保育内容総論のゼミナールをその機会として活用するなど、検討する必要がある。

⑥先生方とのコミュニケーションについて

- 幼稚園からは「よく質問し指摘に耳を傾け、自分の考えや感じたことも述べ指導しやすい」と、同様に保育所からは「分からないところは質問し助言に素直に耳を傾け、学ぶ姿勢を持ち積極的に意見も言え、対話は十分」と好意的に受け入れられている。また、学生も幼稚園実習では「熱心なご指導」「楽しく話し合い」「先生方との関わりを通して保育者への願望が強くなった」、保育所実習では「とても親切に」「就職などのプライベートなことについても相談に乗ってくださった」「チームワークがよくいい雰囲気」などとあるように、指導教員からいねいな実習指導を受け豊かな人間性にも触れて多くのことを学び、保育者への願望を強くしている。このような良好な関係を促進してより充実した実習としていくためには、何より、今回の調査で得られる結果を真摯に受けとめ、実習指導に十分反映していかなければならない。
- 学生自身も反省にあげているが、「担任以外の教諭との交わりが積極的でない」（幼稚園）、「もっと積極的であってほしい、話しかけるとにこやかに話す自分からはもう一歩」（保育所）との指摘もある。保育所未満児クラスの複数担任を例示するまでもなく、保育者相互のチームワーク、保護者との偏らない円満な人間関係は不可欠である。指導していただく先生方に対する実習生としての関わり方について十分な指導助言が必要であることは言うまでもないが、学生がすすんで同世代との限られた交友関係から視野を広げ、ボランティア活動に積極的に参加するなどして立場、年齢の異なる人々と関わる機会を増やしていくことも求められよう。
- ここにおいても、保育実習Ⅱに関わって、発表会などで忙しく十分ではなかったとする記述が実習園、学生の双方にみられる。

⑦実習園の保育方針等の理解について

- 実習園では「園生活の流れや子どもに慣れるのに精一杯で、園の保育方針の理解は難しかった」とあまり多くを要求していないように思われるが、学生は説明を受け、実際の保育をみて理解するように努力している。保育実習では、実習ⅠⅡを通して理解を深めたことが実習園から認められている。

⑧保育者としての適性について

- 実習園では適性を人間性をもとに身につけていくものとして、「子ども好き」「素直な性格」「いつも笑顔で」「何事にも意欲を持って取り組み」「学ぶ姿勢がある」ので本人の努力次第で「よい保母」になれるとして、幼稚園で8割近く、保育所で7割が「十分」「ほぼ十分」学生に適性があるとみている。
- 学生は保育現場を実体験して保育という仕事は苦勞も多いがそれだけやりがいがあると感じ取り、適性があると言い切る自信はないが、「保育者になりたいという意志が固まった」「もっと勉強して経験を重ね保母になりたい」と保育者となる意欲を掻き立てている。

⑨その他

- 幼稚園で「熱心に取り組む」に対して「意欲的な態度や積極性がほしい」、「実習マナー・勤

務態度良好」に対して「挨拶，言葉遣い，礼儀など基本的なことが不十分」，保育所で「意欲的に取り組み担当保母も高く評価している」に対して「日誌を自分の都合のよいときに提出して職員から不満が出た」，「地味な努力ができる」に対して「予想される保育を毎日文章化して実際と照らし合わせていくことの繰り返しが必要」，「学生らしく身なりもきちんと」に対して「社会的常識を身につける必要がある」とあるように，「十分」からも「不十分」からも，保育者としての専門性を高めると同時に社会に通用する教養や態度も身につけようとする意欲や積極性を持った学生が期待され，求められていることがわかる。

- 学生は，「前向きな姿勢が大切」「すすんで時間をいただかなかったのが一番の反省点」「意欲を持って取り組みれば楽しい実習」「子どもとの接点をつくり楽しんで」と実習を振り返って，自主性と楽しむ気持ちを忘れずにポジティブに取り組むことが大切と，「もっと勉強したい」と反省を込めてまとめている。

実習は学生の意欲的な取り組みからはじまる。実習園も多くを要求せず，意欲を持って試みることを求めている。ところが，みえない意欲は具体的な態度，保育活動として表現されなければ分からないものであるのに，学生は十分に表現，発揮していない様子がうかがえる。たとえ保育の内容・方法，技術としては未熟であっても，挑戦しなければ指導も助言も，もちろん評価も達成感や満足感も得られない。このことは，実習園のそのような挑戦をあたたく受けとめてよい面は認め伸ばし，不足は指導助言して補いたいとの期待に応えるためにも，あらためて学生に認識されなければならない。その手だてとしては，授業の中で保育現場に即した保育の知識・技術が主体的に学習されるとともに，実習前に目的・意欲を個々の記録簿にまとめる，実習後に保育体験を学生間で話し合い自己・相互評価するなどの学生の思いや考えを引き出し確かなものにしていく指導が考えられる。

6 実習全般について

- 幼稚園からの要望として出されているのは以下の諸点となっている。
 - ①実習日誌と指導案の書き方を保育の理解，考え方も含めて指導してほしい。
 - ②実習日誌は一冊形式の見やすいものにしてもらいたい。
 - ③実習前指導では基本的な礼儀作法についても学習してほしい。
- 保育所からの要望として出されているのは以下の諸点となっている。
 - ①保育実習Ⅱを運動会や遊戯会を避けた10月中旬～11月上旬に繰り上げた方が通常の保育が経験できる。
 - ②実習日誌と指導案の書き方を指導してほしい。
- 学生からもわずかであるが以下の通り同様の要望が出されている。

幼稚園実習

- ①実習日誌の改善
- ②実習日誌と指導案の書き方を教えてほしい

保育実習

- ①実習Ⅱをもう少し早い時期にしてほしい
- ②実習日誌の記入の仕方を教えてほしい

- 幼稚園からは、「1年保育なので」「園児減少傾向なので」「園の都合を聞かずに卒園生や実習希望者が他園にまわされるのはなぜか」といった、個々の園の状況に応じた対応を望む声も聞かれる。実習園がいかに多数になろうと個々に対しては1対1の連携を心掛けなければならない。

VI. まとめ（今後の課題）

教育実習・保育実習指導に関わる大学としての自己評価の一環として、実習依頼の手続等の実習の現状および実習指導の内容・方法の改善をはかるため、実習園と学生に対してアンケート調査を実施したところ以下の課題が明らかになった。

- 保育実習Ⅱの実習時期について検討する。
- 実習記録簿の見直し。
- 実習園との連携は個々の状況を踏まえてすすめる。
- 実習前指導では、実習記録簿と指導案の書き方についてその考え方も含めて十分な指導が必要である。
- 実習前指導では、基本的な礼儀作法も含め実習生留意事項を徹底する。
- 実習前後指導を工夫し、学生の実習に対する思いや考えを十分に引き出して自己評価をはかり、実習の意味を深める。

付 記

実習園から寄せられた貴重なご意見、ご指摘は、たとえ一例であっても、真摯に受けとめ学生に必ず伝えたい、指導の参考としたいものばかりでした。そこには、学生の意欲を汲み取り保育者としての育ちを見守るあたたかい視線が感じられました。多忙中、アンケート調査にご協力いただきましたことと併せて、心からの感謝を申しあげたい。

参考文献

山田康彦，林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(1)」宮崎女子短期大学紀要第22号 1996.3.

[1996年12月10日受理]

<質問紙>

幼稚園教育実習についてのアンケート

このアンケートは、幼稚園教育実習の実習依頼の手續等についての現状把握・改善のために実施させていただくものです。よろしくご協力をお願いいたします。

平成8年6月 宮崎女子短期大学保育科

幼稚園名 () 回答者 (職名) (氏名)

1 実習依頼の時期 (前年度7月下旬に学生が依頼状を持参) は適当であったと思われませんか

ア 適当であった

イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われませんか

→ いつが適当であったと思われませんか

ウ どちらともいえない

2 実習依頼の手續 (学生が依頼状持参→内諾をいただく→正式依頼) は適当であったと思われませんか

ア 適当であった

イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われませんか

ウ どちらともいえない

3 実習前打ち合わせの回数 (2回訪問するように指導している) は適当であったと思われませんか

ア 3回以上必要

イ 2回が適当

ウ 1回でよい

エ 必要ない

オ その他 → ご意見等具体的にお書きください

4 実習の通勤手段 (原則として徒歩あるいは自転車と指導している) は適当であったと思われませんか

ア 適当であった

イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われませんか

ウ どちらともいえない

5 実習全般について、お気付きのことやご意見等がありましたら、具体的にお書きください

6-(1) ()の実習の様子をご覧いただき、充実した実習であったと思われませんか

- ア 充実した実習であったと思われる
イ ほぼ充実した実習であったと思われる
ウ どちらともいえない
エ あまり充実した実習ではなかったと思われる
オ 充実した実習ではなかったと思われる

6-(2) (1)で判断された学生の実習の様子として以下の項目についてお答えください

(項目ごとに、特にお気付きのことやご意見等がありましたら、具体的にお書き添えください)

①目的意識・意欲 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

②事前学習 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

③専門的知識・技術 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

④研究保育 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑤子どもたちとの関わり 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑥先生方とのコミュニケーション 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑦園の保育方針等の理解 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

- ⑧保育者としての適性 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

- ⑨その他 → 具体的にお書きください

幼稚園教育実習についてのアンケート

このアンケートは、幼稚園教育実習の実習園決定の手続等について現状を把握するためのものです。

平成8年6月 保育科

保育科 クラス () 学籍番号 () 氏名 ()

- 1-(1) 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったのはいつですか

- ア 平成7年 () 月にあいさつに行った
イ あいさつには行ったが、期日を忘れた
ウ あいさつには行かなかった → 理由を具体的に書いてください

- 1-(2) 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか

- ア 全員 () 人そろってあいさつに行った
イ 実習生は自分一人だけだった
ウ 別々にあいさつに行った → 理由を具体的に書いてください

- 2-(1) 実習園との実習前打ち合わせに行きましたか

- ア 平成 () 年 () 月と平成 () 年 () 月の2回行った
イ 実習園より1回でよいと指示され、平成 () 年 () 月に1回行った
ウ 自分の判断で、平成 () 年 () 月に1回行った
エ 実習園より来なくてよいと指示され、行かなかった
オ 自分の判断で、行かなかった
カ その他 → どのように打ち合わせしたか具体的に書いてください

2-② 実習園との実習前打ち合わせに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか

- ア すべて全員そろって打ち合わせに行った
イ 実習生は自分一人だけだった
ウ そろって行ったときと別々に行ったときがあった → 理由を具体的に書いてください

3 実習園への通勤手段は何でしたか

- ア 徒歩 イ 自転車 ウ バイク エ 自動車 オ バス
カ 父母などによる送迎 キ その他 → 具体的に書いてください

4 実習全般について、気付いたことや意見等があれば、具体的に書いてください

5-① 実習を終えて、充実した実習であったと思いますか

- ア 充実した実習であったと思う
イ ほぼ充実した実習であったと思う
ウ どちらともいえない
エ あまり充実した実習ではなかったと思う
オ 充実した実習ではなかったと思う

5-② (1)でそのように思われた理由として、以下の項目について答えてください

(項目ごとに、特に気付いたことや意見等があれば、具体的に書き添えてください)

- ①目的意識・意欲 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

- ②事前学習 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

- ③専門的知識・技術 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

④研究保育 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑤子どもたちとの関わり 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑥先生方とのコミュニケーション 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑦園の保育方針等の理解 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑧保育者としての適性 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不足 不足

⑨その他 → 具体的に書いてください

保育所実習についてのアンケート

このアンケートは、保育実習ⅠⅡ（保育所実習）の実習依頼の手續等についての現状把握・改善のために実施させていただくものです。よろしくご協力をお願いいたします。

平成8年11月宮崎女子短期大学保育科

保育所（園）（ ） 回答者（職名 ）（氏名 ）

1 実習依頼の時期（前年度7月下旬～8月に学生が依頼状を持参）は適当であったと思われませんか

ア 適当であった

イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われませんか

→ いつが適当であったと思われませんか

ウ どちらともいえない

2 実習依頼の手続（学生が依頼状持参→内諾をいただく [9月末] →正式依頼 [12月上旬]）は
適当であったと思われませんか

ア 適当であった

イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われませんか

ウ どちらともいえない

3 実習前打ち合わせの回数（1回は訪問するように指導している）は適当であったと思われませんか
保育実習Ⅰ（2月の実習）：ア 2回以上必要 イ 1回が適当 ウ 必要ない

エ その他 → ご意見等具体的にお書きください

保育実習Ⅱ（11月の実習）：ア 2回以上必要 イ 1回が適当 ウ 必要ない

エ その他 → ご意見等具体的にお書きください

4 実習の通勤手段（原則として徒歩あるいは自転車と指導している）は適当であったと思われませんか

ア 適当であった

イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと思われませんか

ウ どちらともいえない

5 実習全般について、お気付きのことやご意見等がありましたら、具体的にお書きください

6-1) 保育実習ⅠⅡを通して、()の実習の様子をご覧いただいて、よい実
習ができていたと思われませんか

ア 十分であった

イ ほぼ十分であった

ウ どちらともいえない

エ やや不十分であった

オ まったく不十分であった

6-2 (1)で判断された学生の実習の様子として以下の項目についてお答えください

(項目ごとに、特にお気付きのことやご意見等がありましたら、具体的にお書き添えください)

①目的意識・意欲 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

②事前学習 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

③専門的知識・技術 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

④研究保育 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑤子どもたちとの関わり 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑥先生方とのコミュニケーション 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑦所(園)の保育方針等の理解 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑧保育者としての適性 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑨その他 → 具体的にお書きください

保育所実習についてのアンケート

このアンケートは、保育実習ⅠⅡ(保育所)実習の実習園決定の手続等について現状を把握するためのものです。7月には幼稚園の教育実習について調査をしましたが、今回は保育所についての調査なので、引き続き協力してください。

平成8年11月 保育科

保育科 クラス（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

1-(1) 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったのはいつですか

- ア 平成7年（ ）月にあいさつに行った
イ あいさつには行ったが、期日を忘れた
ウ あいさつには行かなかった → 理由を具体的に書いてください

1-(2) 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか

- ア 全員（ ）人そろってあいさつに行った
イ 実習生は自分一人だけだった
ウ 別々にあいさつに行った → 理由を具体的に書いてください

2-(1) 実習園との実習前打ち合わせに行きましたか

- 保育実習Ⅰ（2月の実習）：ア（平成7年12月 平成8年1月 平成8年2月
その他：平成__年__月）に行った
イ 打ち合わせに行ったが、期日を忘れた
ウ 実習園より来なくてよいと指示され、行かなかった
エ 自分の判断で、行かなかった
オ その他 → どのように打ち合わせしたか具体的に書いてください

- 保育実習Ⅱ（11月の実習）：ア（平成8年9月 平成8年10月 平成8年11月
その他：平成__年__月）に行った

- イ 打ち合わせに行ったが、期日を忘れた
ウ 実習園より来なくてよいと指示され、行かなかった
エ 自分の判断で、行かなかった
オ その他 → どのように打ち合わせしたか具体的に書いてください

2-(2) 実習園との実習前打ち合わせに行ったとき、実習生全員そろって行きましたか

- ア すべて全員そろって打ち合わせに行った
イ 実習生は自分一人だけだった
ウ そろって行ったときと別々に行ったときがあった → 理由を具体的に書いてください

3 実習園への通勤手段は何でしたか

- ア 徒歩 イ 自転車 ウ バイク エ 自動車 オ バス
カ 父母などによる送迎 キ その他 → 具体的に書いてください

4 実習全般について、気付いたことや意見等があれば、具体的に書いてください

5 ー(1) 保育実習ⅠⅡを通して、よい実習ができたと思いますか

- ア 十分であった
イ ほぼ十分であった
ウ どちらともいえない
エ やや不十分であった
オ まったく不十分であった

5 ー(2) (1)でそのように思った理由として、以下の項目について答えてください

(項目ごとに、特に気付いたことや意見等があれば、具体的に書き添えてください)

- ①目的意識・意欲 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

- ②事前学習 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

- ③専門的知識・技術 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

- ④研究保育 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

- ⑤子どもたちとの関わり 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑥先生方とのコミュニケーション 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑦所(園)の保育方針等の理解 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑧保育者としての適性 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑨その他 → 具体的に書いてください